令和７年度版

表現の友

3

年

見本

愛知教育文化振興会
三河教育研究会

原稿用紙の使い方

一　題は一行目の四番目のますから書き、学年・組・氏名は二行目に、本文は三行目から書きましょう。

二　各段落の始めは、必ず一字下げて書きましょう。

三　読みやすいように、（、）（。）をしっかりつけましょう。（、）（。）はそれぞれ一字に数え、ますの中の右上の方につけましょう。ただし、（。）の後ろに（」）がきたときは、（。）と（」）を同じますに入れましょう。

四　会話は、「　」の中に入れ、それぞれ一字に数えて、ますの中に入れましょう。また、行の最後のますに文字のあるときは、（、）（。）（」）も、同じ最後のますに入れ、行の最初のますには、（、）（。）（」）をつけないようにしましょう。

五　推敲するときは、左の記号を用いて直しましょう。

バレー部の楽しさ

一年三組　山下一郎

中学校に入学して少したったころ、教室の戸を勢いよく空けながら、守君が聞きました。

「山下君、もう何部に入るか決めた。」

ぼくは守君の方を振り返って、

「バレー部に決めた。おもしろそうだからね。」

と答えた。部活動見学会のとき、楽しそうにやっていたのが印象的だったからです。そしてぼくは、その次の日に入部しました。初めのうちは親しい人もいないし、つらい事が多かったので後悔しました。このごろは、でも、しっかりやろうと考えています。自分で決めた部なのですから……。守君も

推敲の仕方とポイント

一　推敲するときは、次のポイントを確認してみましょう。

- 誤字脱字はないか。
- 主語と述語の関係は正しいか。
- 句読点は適当か。
- 常体、敬体が統一されているか。
- 学習した漢字が使われているか。
- 一文の文字数が百字以上の長すぎるものはないか。
- 体験やそのときの様子や気持ちがわかりやすく書けているか。
- 構成はどうか。順番を入れ替えた方がよいところはないか。
- 書き出し、山場（クライマックス）は効果的に表現されているか。

二　推敲するときは、左の記号を用いて直しましょう。

そして、	下端の横線まで下げる
ました。	上端の横線まで上げる
しました。	つづける
その日	行を変える
そこで	
した。ぼくは	中に入れる
だって 少し	中に入れる
美くしい	消す
このような人	消す
運働会 動	訂正する
わたしは ぼく	訂正する
このごろは、でも	入れ替える
した。山は	

表現がとてもうまいところ

感動したところ

△ 意味がよくわからないところ

× 語句（言葉）が適当でないところ

見本

表現の友　３年

もくじ

一　自分の思いを伝える方法を身につけよう　2
○論理の展開を意識して書こう　小論文　(教P.54)　2
○俳句の創作教室　俳句　(教P.66)　5
○考えを効果的に伝えよう　批評文　(教P.136)　7

二　生き方を見つめよう　10
―体験をとおして自分を見つめたことを
いきいきと書こう―
○読書感想文を書こう　読書感想文　10
○読書感想文を練り上げよう　読書感想文　15
○詩を書こう　詩　16
○生活作文を書こう　生活作文　19

付録　記述問題に挑戦しよう　26

※(教)…光村図書　教科書対応ページ

1年

一　さまざまな表現を楽しもう　2
○情報を整理して説明しよう　説明文　(教P.54)　2
○項目を立てて書こう　案内文　(教P.116)　4
○根拠を明確にして書こう　レポート　(教P.140)　5
○構成や描写を工夫して書こう　随筆　(教P.228)　8

二　生き方を見つめよう　10
―体験をとおして自分を見つめたことを
いきいきと書こう―
○読書感想文を書こう　読書感想文　10
○読書感想文を練り上げよう　読書感想文　15
○詩を書こう　詩　16
○生活作文を書こう　生活作文　19

付録　記述問題に挑戦しよう　26

2年

一　さまざまな表現を楽しもう　2
○情報を整理して伝えよう　ガイドブック　(教P.54)　2
○表現を工夫して書こう　手紙・電子メール　(教P.110)　4
○適切な根拠を選んで書こう　意見文　(教P.132)　7

二　生き方を見つめよう　10
―体験をとおして自分を見つめたことを
いきいきと書こう―
○読書感想文を書こう　読書感想文　10
○読書感想文を練り上げよう　読書感想文　15
○詩を書こう　詩　16
○生活作文を書こう　生活作文　19

付録　記述問題に挑戦しよう　26

見本

一　自分の思いを伝える方法を身につけよう

―論理の展開を意識して書こう―（教 P.54）

グラフを基に小論文を書く

「遊園地に行きたい」「春といえば、桜だ」「カレーがいちばんおいしい」など自分の考えや意見を伝える場面はさまざまです。しかし、ただ考えを言うだけでは、相手に自分の思いが伝わらなかったり、納得してもらえなかったりするかもしれません。そこには、自分の考えを支えるグラフなどの資料や根拠が必要になるでしょう。

資料を踏まえて意見を書くときには、情報を的確に読み取り、それを基に考えたことを論理的に表現する力が必要になります。ここでは、課題にそって情報を読み取り、文章の構成や論理の展開を意識して、読み手に自分の思いが伝わる小論文を書きましょう。

1　課題にそって材料を集める

・課題を正確に理解し、タブレットなどを用いて資料を集める。
・読み取った事実と、その解釈やそれを基に考えたことを書き出す。

2　構成や内容を考える

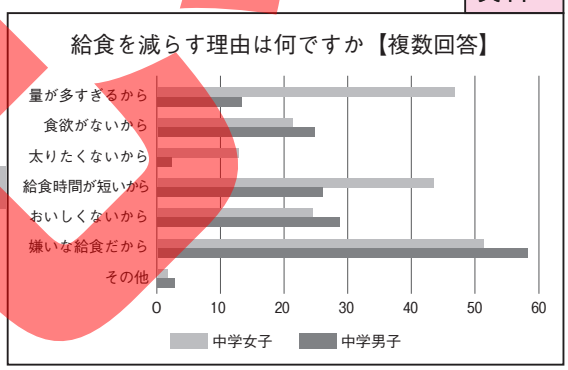
・軸となる意見を決め、適切な根拠を選ぶ。
・多様な読み手を説得できるように論理の展開を考え、文章の構成を工夫する。

3　小論文を書く

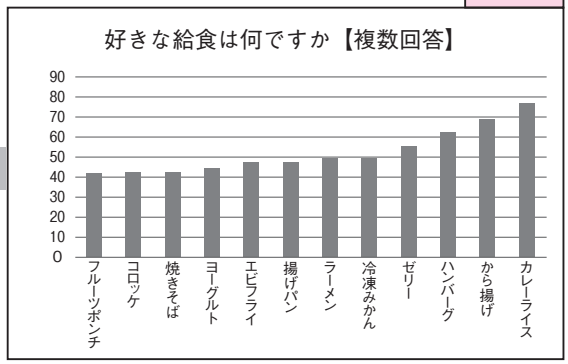
・規定の文字数を守り、考えがわかりやすく伝わるよう表現を工夫して書く。

【課題】　どうすれば中学校の給食廃棄率を下げることができるか。

資料1



資料2



根拠1　資料1から嫌いな給食だと、減らす人が多い。

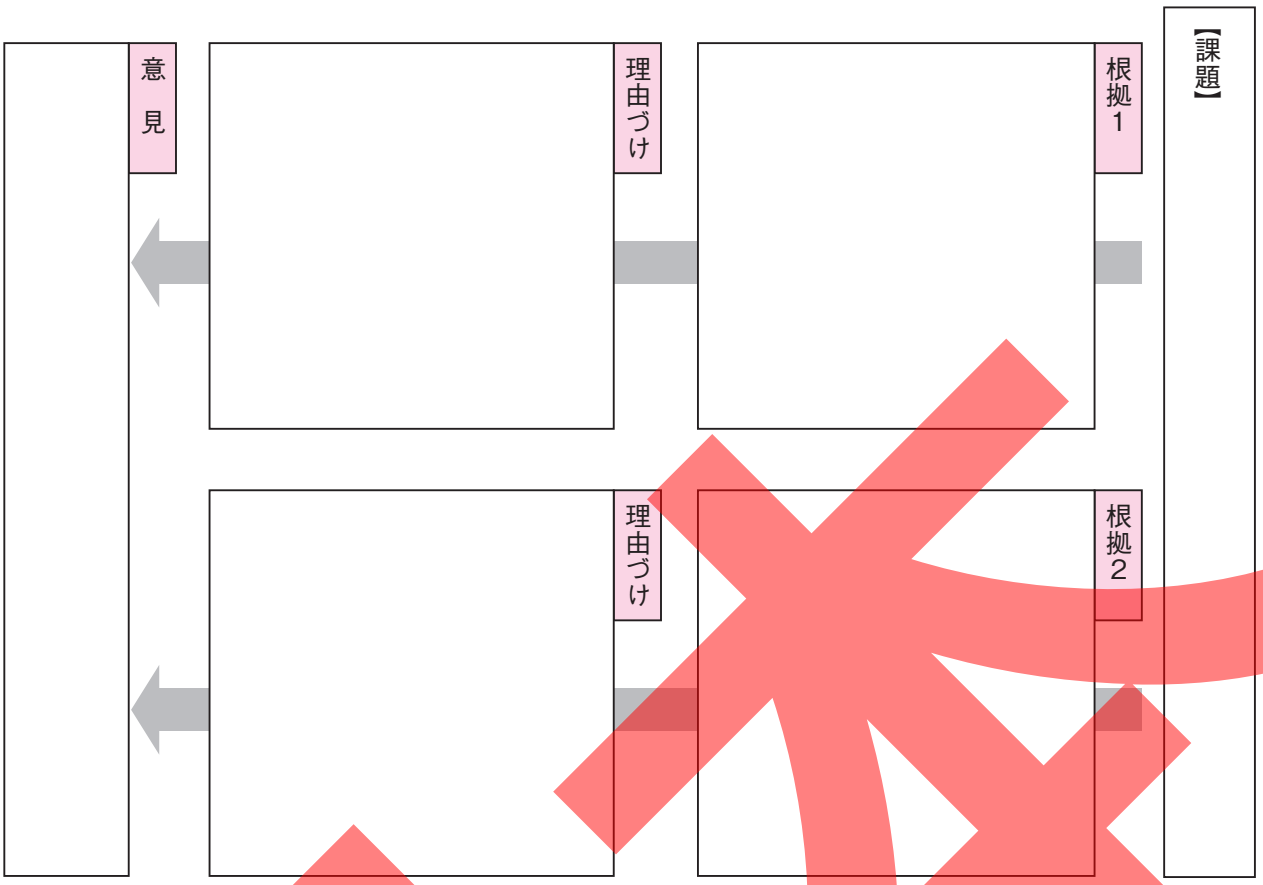
理由づけ　・身体が成長する時期
・カレーライスは一日に必要なたんぱく質を摂取できる。

根拠2　資料2から中学生は給食のカレーライスが大好き。

理由づけ　・多種多様なカレーがあることで、飽きさせない工夫ができる。

意見　中学校の給食廃棄率を下げるために、カレーライスの日を増やすことを提案する。

○前のページを参考にして、論理の展開をまとめてみよう



【小論文の例】

序論

私は、中学校の給食廃棄率を下げるために、カレーライスの日を増やすことを提案する。

本論

資料1から見て取れるように、「嫌いな給食が出る」という理由で給食を減らす生徒は多い。この理由は、「量が多すぎるから」「給食時間が短いから」の項目と比べて、男女差がない。これは、中学生全般にいえる理由だということを意味する。一般に、中学生は思春期を迎えて身体が大きく成長する時期である。成長期には、身体を大きくするために、たくさんの栄養素が必要になってくる。その点、カレーライスは一皿で一日に必要なたんぱく質が摂取できる。足りないカルシウムやビタミンはサラダと牛乳を合わせることで、バランスよく栄養が摂れるため、成長期の中学生に適した給食であるといえる。

また、資料2によると、好きな給食として「カレーライス」と答えた中学生は全体の約八割に上り、カレーライスの人気の高さがうかがえる。カレーライスといっても、ナンで食べるキーマカレーや、インドの豆カレーなど多種多様だ。同じ味では飽きてしまう可能性もあるが、カレーであれば種類や具材を変えることで、飽きさせない工夫をすることができるはずだ。

結論

以上のことから、カレーライスの日を増やすことは、中学校の給食廃棄率を下げるための有効な手段だと考える。

見本

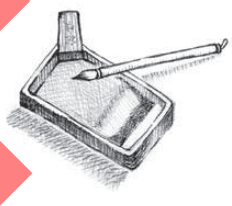
○小論文を書いてみよう

序　論	本　論	結　論
▼提案・自分の考え ・私は、○○を提案する。【提案】	▼資料の分析・解決策の提示 ・資料○○から見て取れるように、【事実】 ・○○は、□□と比べて【比較】 ・これは、○○ということを意味する。【解釈】 ・一般に、【一般論】 ・○○の要因として、【原因】 ・その点、【観点の提示】 ・○○といえる。【意見】 ・全体の○割に上る。【数値】 ・○○がうかがえる。【解釈】 ・○○はずだ。【意見】 ☆論を展開するときに使う表現 ・○○に基づいて ・この背景には○○がある。 ・具体的には ・例えば、○○という事例がある。 ・いっぽう、○○という視点から考えると、	▼まとめ ・以上のことから、【結論】

見本

―俳句の創作教室―（教P.66）

俳句は、五・七・五というリズムをもった世界で最も短い詩です。五・七・五・七・七のリズムをもつ短歌とともに、日本の伝統的な短詩型文学です。俳句は、江戸時代から現代にいたるまで、多くの人々に親しまれてきました。みなさんも、自分らしい感動を切り取った俳句を創作してみましょう。



一 俳句の基本を押さえよう

(一) 定型　五・七・五の十七音を定型とする詩型

初句・五音　古池や
二句・七音　蛙とびこむ
結句・五音　水の音

○「字余り」「字足らず」…五・七・五の定型から音数がずれたもの
○「自由律俳句」……五・七・五の定型にとらわれない句

(二) 季語　季節を表す言葉
一句の柱となる言葉に「季語」を用いる。
○「歳時記」…季語を集めて分類し、解説などが書かれた書物

【春】・梅　・卒業　・潮干狩り　・たんぽぽ　・ひなあられ
【夏】・鮎　・夕立　・鯉のぼり　・たけのこ　・かたつむり
【秋】・柿　・朝顔　・かまきり　・コスモス　・いわし雲
【冬】・熊　・北風　・除夜の鐘　・くしゃみ　・クリスマス

○「無季俳句」…季語の無い俳句
○「有季定型」…五・七・五の「定型」で「季語」を用いるきまり

(三) 切れ字　俳句の中で句の切れ目に使う言葉

〈主な切れ字〉（一音）ぞ、や、か、よ
（二音）かな、けり、らむ
（三音）もがな

二 俳句の作り方を知ろう

次にA・B・Cの俳句の作り方を示します。例を参考にしながら作り方を学び、最後は自分に合う方法で俳句を創作しましょう。

A 「私」の感じ方を確かめよう

春のどんなところが好きですか。Ⓐ Ⓑどちらかの形で、好きだと思う理由を「五音・七音」もしくは「七音・五音」で書き入れてみましょう。

Ⓐ春が好き

（例）春が好き　別れもあるが　出会いあり
（例）木々揺らす　心地よい風　春が好き

Ⓑ

春が好き

見本

B 「私」の気持ちに言葉を与えよう

小説やドラマのようにせりふを考え、気持ちにフィットする季語を合わせてみましょう。

気持ち	（例）試合に勝ちたい	（例）栄光掴むわ　私たち	（例）向日葵・太陽（栄光）に向かって咲く花だから、みんなが同じ方向（勝利）に向かっていくことができる。
せりふ			
季語			
理由			
完成			（例）向日葵や 栄光掴むわ 私たち

C 季語の中に「私」を探そう

心ひかれる生き物を季語の中から探し、なりきって詠んでみましょう。

生き物	（例）海月	ぐっとくるしぐさや、その生き物としてしたいこと	
完成	（例）ふんわりと 輝き放つ 海月かな	（例）暗い場所でも ふんわりと浮 いて輝いて見 えるところ	

ABCの作り方から一つ選び、その作り方にそって書いてみよう

完成した俳句	込めた想いや工夫した点を書きましょう。

見本

―考えを効果的に伝えよう―

（教 P136）

多角的に分析して批評文を書く

批評文とは、対象とする事柄の特性や価値などについて、根拠をもって論じたり、評価したりした文章である。ここでは、広告などについて、客観的に分析したうえで、論理の展開や表現を工夫して批評文を書いてみましょう。

1　題材を選ぶ

・地域社会で見聞きしたことや、新聞、テレビなどのメディアを通して知ったことの中から、関心のある事柄を選ぶ。

2　観点を決めて分析する

・観点を決めて問いを立て、考えを深める。

3　構成を考える

・自分の考えをわかりやすく伝えるための、論理展開や表現のしかたを考える。

4　批評文を書く

・規定の文字数でまとめる。
・批評に有効な観点や表現、論理展開を意識し、自分の考えが伝わるように工夫して書く。

【題材の例】

分析の観点は、「キャッチコピー」や「絵の構図」「文字の構図」「色使い」「広告のねらい」など自分で考えて決めましょう。

【分析の例】

観点	キャッチコピー	絵や文字の構図	ポスターのねらい
問いと、それに対する自分の考え	・「巻き込まれています」とはどういうことか。 →受け身の意味で書かれており、外的要因がもとで事故が起きているということ。 ・「その危険、見ようとしていますか」とはどういうことか。 →周囲を見て歩くことができるはずなのに、スマートフォンを見ているなど配慮が足りないということ。	・絵の構図にはどのような効果があるか。 →ポスターを見た人に、倒れた白杖と画面の壊れたスマートフォンから、接触事故の悲惨さを伝える効果がある。 ・文字の構図にはどのような効果があるか。 →キャッチコピーの一つを小さな文字で表すことで、見ようとしなければ見えない危険があるということを伝える効果がある。	・何をいちばん伝えたかったのか。 →社会生活の中で困難を抱えた人々と共生していくうえで、見ようとしなければ見えない危険に気づき、自己中心的な見方ではなく周囲に配慮した見方をすることが大切であるということ。

見本

○前のページを参考にして、広告などの分析をしてみよう

観点				
問いと、それに対する自分の考え				

【文章の例】

序論	本論	結論

①このポスターは、視覚障害者と歩行者との接触事故を例に、社会に困難を抱えた人々と共生していくうえで、まず「見ること」、そして「周囲に配慮した行動をすること」の大切さを伝えている。

「巻き込まれています」と「その危険、見ようとしていますか？」という②キャッチコピーは、言葉と言葉の関係性が印象的である。③「巻き込まれています」とは、受け身の意味で書かれており、外的要因がもとで事故が起きているということを強調している。その外的要因は、スマートフォンを見ながら歩いているような、見えるのに見ようとしていない配慮の足りない人のことである。④周囲に配慮ができる人が増えれば、悲惨な事故は起きないということを伝えたいのだ。

また、このポスターは⑤絵や文字の構図にも、工夫が施されている。倒れた白杖と画面の割れたスマートフォンからは、接触事故の悲惨さが伝わってくる。そして、キャッチコピーのうち一つを小さな文字で書くことで、見ようとしなければ見えないことがあるということを表しているのだ。これらは、「目が見えているのに、歩きスマホをして周りを見ていない人の危険性」を伝えるという意図が反映されているのだ。

２０２５年〇月〇日の〇〇新聞の投書欄に、⑥「見えないまま歩くことは不安で、なるべく注意をはらって歩いている。でも、歩きスマホで向かってくる人には気づくことができない。私は相手に怪我をさせたくない。」という視覚障害者の声が掲載された。「見ること」や「周囲への配慮」が視覚障害者の心強さや安心感につながることは、実際の事例からも明らかである。

さまざまな人が共に生きる社会。だからこそ「見て、周囲に配慮すること」に価値がある。⑦相手の困難に寄り添うために、自己中心的な見方をするのではなく周囲に配慮した見方をすべきだというメッセージを私たちに訴えかけているポスターである。

▼考え・主張
①ポスターのねらい
▼具体例
②分析の観点
③前提
④解釈
⑤分析の観点
⑥考えの補強（引用）
▼まとめ
⑦評価・価値づけ

見本

○批評文を書いてみよう

序　論	本　論	結　論

【表現】
●文体
・常体　【簡潔さ・力強さ】
●文末表現
・……だ／である。【断定】
・……なのだ。【強調】
・……社会。【体言止め】
●語句
・明らか（である）
・まっすぐに（心に届く）
【力強い語感の語句】
●その他の表現
・「○○○○」【強調】
・まるで～のように【比喩】

【批評するときの表現】
・○○というねらいで
・○○の背景／根底には
・○○という視点に立つと
・○○という特徴がある

本番

二　生き方を見つめよう

―体験をとおして自分を見つめたことを いきいきと書こう―

学習のめあて

本に書かれた内容をとらえ、社会生活をとおして自分の思いや考えを深め、論理の展開を工夫して書こう。

―読書感想文を書こう―

一　本の選び方の「こつ」

読書感想文を書くために最も大切なことは、自分にとって価値ある本を選ぶことです。自分という人間を見つめ直すきっかけとなったり、生き方を考えさせられたりする価値ある本を選びましょう。

書名	
著者	
出版社	

二　メモを取りながら読み取ろう

作品をとおして作者が言いたかったこと（主題）をまず考えましょう。疑問に思うところや理解できないところは、繰り返し読みましょう。

内容を読み取る手助けとしてメモを取るとよいでしょう。心に残った部分や印象的だった部分に付箋紙を貼っていきます。読み終わったら左ページの「メモを取る視点」を参考にメモを取りましょう。付箋紙にメモを取ると、あとで構成を考えるときに並べ替えることができ、便利です。

三　材料を選ぼう

感想文を書いていくために、取り終わったメモを整理します。特に中心になる感想を決め、それに関わる形で使えるものを選んでいきましょう。自分の体験と関わりのあるものを中心に据えるとよいでしょう。さらに、その内容と関わりのある自分の体験を書き出していきます。

四　構成を考えよう

書くための材料が集まったら、それをどのように並べて感想文を書いていくかを考えましょう。自分の考えをわかりやすく伝えるためにも、読み手をひきつけるためにも、どのような順番で書いていくのかは重要です。

○構成例

はじめ	なか1	なか2	まとめ	むすび
・本の中の最も印象に残った場面やせりふ、キーフレーズ ・本を読んだときの自分の驚きや読み終わったあとの自分の変化 ・登場人物の呼びかけやメッセージ	・登場人物の生き方、考え方と自分との共通点 ・作品と関わる自分の生活の様子や経験 ・選んだ本と出会う前の自分の考え方や生活	・登場人物のせりふや行動に対する自分の考え ・テーマについて考えたこと ・共感できること、できないこと	・登場人物と自分自身の生き方、考え方の共通点 ・登場人物と自分自身の生き方、考え方の相違点とその理由	・自分の心の成長や生き方についての考え ・今後の自分の生活に役立てたいこと

見本

㈠　本の中の印象的な場面やせりふを、二重線の四角に書き出そう。
※付箋紙を使えば、P14で構成を考えるときにそのまま貼り替えて使えます。

㈡　本の登場人物の体験と似たあなた自身の体験を思い出して、四角の中に書いてみよう。

○メモを取る視点

①心を揺さぶられた言葉や感動したこと
②疑問に思ったこと、批判したいこと
③登場人物や著者、テーマについて考えたこと
④自分の周囲の社会や生活に関わりのあること

○読書をきっかけに、自分の体験を見つめ直そう

・作品中の出来事や登場人物の行動と関わりのある自分の体験を積極的に書いていこう。
・「自分の考え、行動」など、自分自身と作品の関わりを、自分の言葉で書こう。

本文

「成功」に近づくために

豊橋市立高豊中学校三年　伴　唯華

江戸時代、現代のような西洋数学は日本に伝わっておらず、中国をルーツとする数学、和算が日本の数学者の間で流行っていた。関孝和はその中の一人である。彼はただ数学を愛しただけでなく、理論を追究し、理解できるまで深く考えて問題を解いていった。自分で答えが見つからないときは、他の数学者と話し合ったり、多くの書物を読んだりして、数学を究めた。

「円周率の謎を追う　江戸の天才数学者・関孝和の挑戦」。この本を読んでいてふと思う。私と孝和は少しばかり似ている。私も数学や理科の勉強をしながら、公式を当たり前と思えず、なぜそうなるのかを追究してしまうことがある。だから、孝和の考え方には共感できた。

また、読んでいるうちに私と孝和の大きな違いにも気づいた。孝和の場合、興味をもったらとことん追究する。一つの方法でうまくいかなくても他の方法を考え、解決にまで至る。私の場合、うまくいかないとすぐに問題を投げ出してしまう。私が数学を好きになれない理由はそれだ。孝和の「諦めない気持ち」は、今の私に一番足りないものだと実感した。

孝和は世界に通用する数学の理論を生み出した。しかし、そこまでの人生を一人で歩んできたわけではない。数学を学ぶきっかけとなったのは兄・永貞だ。両親のいない孝和の父親代わりであった永貞に厳しくされながらも、多くの場面で支えられて育った。

また、数学に対する視野を広げてくれたのは、孝和にとって数学の師である柴村先生や沢口先生たち。数学を楽しく続けられたのは柴村先生の娘、香奈のおかげだ。孝和はたくさんの人に支えられた。その一人一人が孝和の人生の中で大きな役割を果たしている。これは自分も同じだと感じた。

私は自分の友達や家族、先生などさまざまな人を思い浮かべてみた。その一人一人が、私の人生の中で大切な存在だ。その中の一人でも欠けていれば、今の自分はいないかもしれない。私は「仲間を有難く思う気持ち」を忘れかけていた。仲間たちがいることを当たり前だと決めつけてはならない。孝和の人生から仲間の大切さを改めて感じることができた。

さて、孝和を支えた仲間の一人である沢口先生。彼が数学と他の学問との両立に悩む孝和に言った言葉は、私の心に突き刺さった。

はじめ
- 最も印象に残った場面やせりふ、キーフレーズ
- 読んだときの自分の心の動き
- 登場人物の呼びかけやメッセージ

といった内容を書いていきます。

この作文では、作品のテーマや登場人物の生き方について要約して書いています。

作品のテーマ
登場人物の生き方

なか1
- 登場人物の生き方、考え方と自分との共通点
- 作品と関わる自分の生活の様子や経験
- 選んだ本と出会う前の自分の考え方や生活

といった内容を書いていきます。

この作文では、主人公との共通点や相違点を具体的に上げながら、気づきや気持ちの変化を書いています。

登場人物の生き方、考え方と自分の共通点・相違点
自分の生活の中での気づき

なか2

「わたしは、どちらも大切です。だからどちらも全力でやります。御用も、生涯をかけて研究する数学も、中途半端な気持ちではできません。」

何度も読み返した。圧倒された。同時に自分自身を情けないと感じた。一つのことだけだったら、私だっていつも全力で取り組んでいるつもりだ。だが、二つ三つと課題が増えて行けば、何かを切り捨てることが普通になっていた。なぜ私は「全て全力」を選ばなかったのだろう。今までの自分の行動を後悔した。しかし、挽回のチャンスがないわけではない。この本を読んで、この生き方を見つけることができた。

「全て全力」を決めた私は、これから先、きっと変われるに違いない。今まで出来ないと思っていたことが、出来るようになるかもしれない。沢口先生に元気づけられた気がした。彼は孝和にとっても、私にとっても、かけがえのない恩師だ。

孝和の偉大な業績が世界の数学者に知られたのは、明治以降、彼の死から二百年後だ。彼の業績には誰もが驚かされた。残念ながらノーベル数学賞はない。ましてやノーベル賞は生きている人にだけ与えられる賞だから、孝和はもう、もらうことができない。しかし、彼の発見はノーベル賞を受賞してもおかしくないほどのものだ。

孝和は数学に関して成功を収めた。それだけでなく、御用と数学との両立も果たした。成功は簡単なことではない。何をするにも必ず失敗という困難が待ち受けている。その先に成功というゴールがあるのだ。失敗を乗り越えるために「諦めない気持ち」「仲間を有難く思う気持ち」を忘れない、そして「全て全力」で突っ走る。そんなことを孝和の人生から教えられた。それが、成功するためのヒントなのである。

そして、成功を手に入れたからと安心してはならない。成功というゴールは挑戦という名のスタートに変わるのだ。人生はその繰り返しなのだと思う。新しい挑戦に出会えば出会うほどたくさんの経験ができ、たくさんの成功を味わえる。私はこれから、様々なことに挑戦していきたい。

この本から、多くのことを得ることができた。孝和は本当にすごい人だったと思う。私はまだ、生まれてたった十四年。これから数えきれないほどの失敗を繰り返し、困難に立ち向かうことになるだろう。だが、乗り越えられる気がする。成功に近づくために、強い自分でありたい。

鳴海　風・著　伊野　孝行・画「円周率の謎を追う　江戸の天才数学者・関孝和の挑戦」（くもん出版）

『天空』第十六号　愛知県知事賞　課題読書の部

- 登場人物のせりふや行動に対する自分の考え
- テーマについて考えたこと
- 共感できること、できないこと

といった内容を書いていきます。

この作文では、登場人物のせりふから考えたことが書かれています。

登場人物のせりふ
そこから考えたこと・気づき

まとめ

- 登場人物と自分自身の生き方・考え方の共通点とその理由
- 登場人物と自分自身の生き方・考え方の相違点とその理由

といった内容を書いていきます。

この作文では、登場人物の生き方との相違点からこれからの自分の生き方について書いています。

自分と登場人物との相違点から教えられた生き方

むすび

- 自分の心の成長や生き方についての考え
- 今後の自分の生活に役立てたいこと

といった内容を書いていきます。

この作文では、作品を読み、今後の自分にどう生かしていくかが書かれています。

今後の自分にどう生かしていくか

㈢　前のページを参考にして読書感想文の構成を考えてみよう。
※「なか1」「なか2」には、P11で書いた付箋紙をそのまま貼ることもできます。

※下のQRコードを読み取ると、ワークシートを入手できます。

	書く事柄とその順序	ポイント
はじめ		・最も印象に残ったせりふ。 ・自分の驚きや心の変化。 ・登場人物へのメッセージ。など
なか1		**自分の「生活体験」を書きます** ・どんな体験でもよいわけではありません。「自分の読んだ本と関連した体験」を見つけます。そして、自分の生活を振り返り、似たような体験を書きます。 ・全く同じ体験である必要はありません。 ・選んだ本と出会う前の自分の考え方や生活を書くことが大切です。
なか2		**あなたの「読書体験」を書きます** ・読んだ本の魅力を書きます。 ・心に残った登場人物のせりふや行動などを引用しながら、本のテーマについて、自分なりの解釈や感想を書きましょう。 ・特に次の点に注意しましょう。 ①主人公の心を大きく変える事件 ②主人公の心を揺さぶったせりふ ③主人公の成長につながる人物 ④主人公がこだわる人、物、行動
まとめ		・登場人物と自分自身の生き方や考え方の共通点を見つめ直します。 ・本を読んだことで、自分自身の「心の成長」にどうつながったかを書きます。
むすび		・本を読んだことで得た「心の成長」を、今後の自分の生活にどう生かしていくかを書きます。

見本

―読書感想文を練り上げよう―

一 書き出し方の「こつ」

書き出しを工夫してみましょう。いくつか例をあげるので、参考にしてください。

印象的だった言葉の引用から

「このままでいい。見守ろう。やっと旦那さんに会えるんだ。」末期の胆のう癌の安曇さんが危篤のとき、主治医の栗原一止はこう言った。

話の舞台の説明から

現在、世界でまだ戦争が起こっている地域がある。それらの中には互いの価値観の違いや宗教・人種の違いによる差別や偏見が原因のものもある。

読中や読後の感想の一言から

人と本当にわかり合うとは、どういう事だろう。真の友達ってどんな関係だろう。果南と透子の二人の姿を追いながら、私はずっとそのことを考えていた。

主人公の描写や言動の引用から

コナーは死期が近い母を持ち、そのことで周囲から特別扱いされていた。周りから孤立し、いじめられてさえいた。

本の内容と重なる家族の話から

今年僕の祖母がなくなった。祖母はまさに戦争時代のど真ん中を生きた人で、とてもたくましい寅年の蠍座の女の人だった。祖母はよく戦時中の話をしてくれた。

本の登場人物や読者への呼びかけから

〝宇宙〟という場所に一体何人の人が夢を思い描くでしょうか。きっかけは本当にささいなことでした。

二 気持ちや感想を表現する「こつ」

気持ちや感想の表現を工夫すると、印象が変わり、あなたらしさが表れます。自分の感想を表すのに、ぴったりな表現を考えましょう。

1 より具体的に書く

(例) おもしろかったです。 → 思わず笑い出してしまいました。
(例) 感動しました。 → 気づくと涙がこぼれていました。

2 たとえの表現を使って書く

(例) 悲しくなりました。 → 目の前が真っ暗になりました。
(例) 緊張しました。 → 石のように体が動きませんでした。

3 慣用句を使って書く

(例) 驚きました。 → 思わず息をのみました。
(例) 感動しました。 → 心をうばわれてしまいました。

感想文に使いたい表現を探してみよう。

おもしろい	はらはら　どきどき　わくわく 笑わずにはいられない 思わずふき出してしまう ゲラゲラ笑う　腹がよじれる	**悲しい**	涙が止まらない 胸をえぐられる　心が痛む 身を切られる　やるせない 胸が苦しい　せつない
感動する	心を動かされる ため息がでる　胸が熱くなる 胸がいっぱいになる 胸に刻まれる　心をうばわれる	**うれしい**	うきうき　心がはずむ 胸が高鳴る　にやにやする 自然に笑みがこぼれる ほっとする

見本

―詩を書こう―

詩とは、自分の思いや願いなどのさまざまな感情を、リズムに乗せるように書いたものです。五感を研ぎ澄まし、自分自身や自分のまわりをじっくりと見つめたときの心の動きを、言葉にしてみましょう。

詩には、定型詩（決まったリズムで書かれた詩）や自由詩（自由なリズムで書かれている詩）など、多くの種類がありますが、自分の思っていることを書くことが、まずはスタートとなります。

㈠ テーマ（主題）を決めよう

① まず、テーマ（主題）を決めましょう。迷ったら、次の内容を参考にして考えてみましょう。

- 家族　・友達　・先生　・地域の行事　・社会の出来事
- 自然の様子　・自分自身の体験　・喜怒哀楽を感じた出来事

（例）自分自身の体験　→　スマホ依存

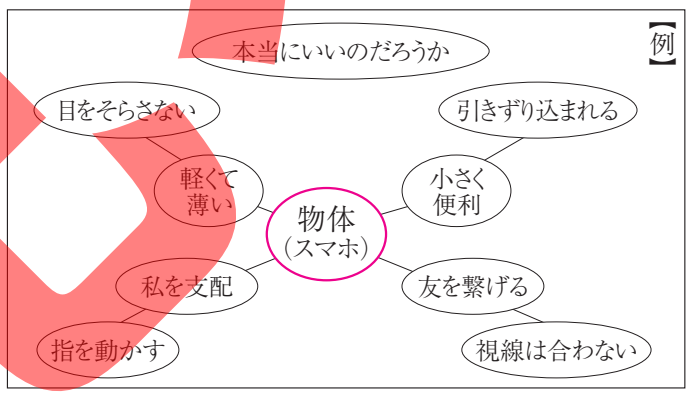
② ①で決めたテーマを、最も「象徴」する「もの」や「言葉」は何でしょう。詩のイメージを広げるために、具体的なイメージをもつことができる「もの」や「言葉」を考えてみましょう。一つにしぼれない場合、今は複数書いておきましょう。

（例）物体

③ ②で選んだ「象徴」をもとに、どんな言葉（キーワード）が思い浮かぶかマッピングしてみましょう。

たくさんの言葉をイメージすることは大切ですが、「テーマ」とのつながりを意識することを忘れないでください。

【例】



④ ①の「テーマ」と、②の「象徴」、③の「言葉（キーワード）」を結びつけるエピソードを書き出してみましょう。季節ごとや、過去・現在・未来の時間順を意識すると書きやすくなります。

【例】

依存				
テーマ	象徴	時間	出来事・考え	キーワード
物体（スマホ）		状況設定	物体（スマホ）の特徴	・2軽くて薄い・3小さく便利 ・4友を繋げる・5支配
	エピソード1 軽くて薄い	朝の目覚め	・目覚めを待っていた ・引きずりこまれる	
	エピソード2 小さく便利	下校	・帰りを待っていた ・目をそらさない	
	エピソード3 友を繋げる	友と過ごす休日	・出番を待っていた ・視線は合わない	
	エピソード4 私を支配する	課題に追われる一日の終盤	・受信の知らせを待っていた ・指を動かす	
主張 問いかけ		私たちは依存している	・本当にいいのだろうか	

※□は連番号

依存

刈谷市立依佐美中学校三年　廣瀬里菜

[1] 軽くて薄いこの物体
小さく便利なこの物体（体言止め・反復法）
友を繋げるこの物体
私を支配するこの物体

[2] 朝の光で目を覚ます
白い天井を数秒見つめ、
新しい日を出迎える
次に瞳に映るのは、
母の笑顔ではない
庭の野菜でもない
静かに佇む、軽くて薄い
この物体である
私の目覚めを
待っていたかのように、

[3] 号令と共に響く声（体言止め）
一目散に教室を飛び出し、
朝の道を逆走行
見慣れた部屋で手に包むのは、
浄化された水ではない
学校の教科書でもない
冷たくたたずむ、
小さく便利なこの物体である
私の帰りを
待っていたかのように、
本当にいいのだろうか（反復法）

（直喩）

[4] 友と過ごす休日のひと時
自然に出る笑顔で、
和やかな時間を過ごす
会話がなくなり手に取るのは、
氷が溶けた飲み物ではない
最近はやりの雑誌でもない
奥深くたたずむ、
友を繋げるこの物体である
自分の出番を
待っていたかのように、
メモリーに二人の笑顔を
刻み込む
コミュニケーションなんか
取らず、
互いの視線は合わないまま
本当にいいのだろうか

[5] 課題に追われる一日の終盤
焦った様子で、
えんぴつを走らせる
通知音で気にするのは、
進まない課題ではない
小さくなった消しゴムでもない
そばにたたずむ、
私を支配するこの物体である
もつ情報を放ちだす
帰宅のあいさつなんか忘れて、
何時間も目をそらさない
本当にいいのだろうか
受信の知らせを
待っていたかのように、（直喩）
光と音で自分を主張する
ほとんど白紙の課題になんか
目もくれず、
せわしく指を動かしたす
本当にいいのだろうか

[6] 本当にいいのだろうか（対句）
もっと聞くべき言葉が
あるはずだ（対句）
もっと言うべき言葉が
あるはずだ
向き合うのは、
友ではないか（対句）
向き合うのは、
自分自身ではないか

[7] 私たちは依存している
軽くて薄いこの物体に
小さく便利なこの物体に
友を繋げるこの物体に
私を支配するこの物体に（倒置・反復法）

[8] 本当にこれでいいのだろうか（反復法　反語（いや　よくない））

『みかわの子』第59号

[2][3][4][5]連は表現を類似させている　[6]作者の主張　[1]と[7]は対応している　[8]で自分自身と読者への問いかけ

P16の【例】を参考に、表にまとめてみましょう。
上段やP18に生徒作品が掲載してあります。参考にしてください。

テーマ			
象徴			
時間			
出来事・考え			
キーワード			

見つけた夢

蒲郡市立蒲郡中学校三年　小林美陽

1 「大きくなったら、何になりたい？」（反復）
幼稚園のときから聞き慣れた言葉
三才のときはお姫様
四才のときはお花屋さん
ころころ変わってきた
私の夢

2 「大きくなったら、何になりたい？」
今年は中学三年生となり
四年後には大学生
いつの間にか
自分で進路を選ぶ年になっていた

3 「大きくなったら、何になりたい？」
私は美術部に入部した
ダメ元で応募した
建築デザインのコンテスト
私は賞をとった

4 「大きくなったら、何になりたい？」
私は街中の建物を見るようになった
黒い家、丸い家、平屋の家、古い家（…）
立ち並ぶ家々
こんなにいろいろな家があったとは（…）
（省略法）

5 「建築って、人が実際に入ることができる唯一の芸術じゃない？」
母の言葉が、
私の心の琴線に触れた

6 街は芸術にあふれている
住む人を何十年にもわたり守る
通りすがりの人を笑顔にする
人々を支え、幸せにする
（「る」押韻 リズムのよさ）

7 こんな仕事が他にあるだろうか（反語）
（いや 他にはない）

8 「大きくなったら、何になりたい？」
私の夢
独創的な家を造れる
みんなの夢を創れる
建築家になりたい

（体言止め）

起 1 幼少期 → 承 2 3 4 現在 → 転 5 6 7 母との話による気づき → 結 8 夢の決定

『みかわの子』第60号

(二) 詩を作ろう

①㈠の④「エピソード」を一つの「連」にまとめてみましょう。もし、一つの連でまとめるには長いと感じるときは、二つ、三つの連に分けましょう。

最初の「状況設定」や、最後の「メッセージ」はなくてもかまいません。原稿用紙に書く前に、詩の構成を考えておきましょう。

状況設定
エピソード1
エピソード2
エピソード3
考察【感じたこと】
メッセージ

②最後の仕上げです。声に出して読んでみましょう。もし、言いにくかったり、つかえたりするところがあれば、別の言葉に言い換えてみましょう。友達に読んでもらうのもよい方法です。

見本

―生活作文を書こう―

中学校生活の中で、今までと違う自分の姿を見つけたり、気がついたりしたことはありませんか。周りの人々とのふれあいの中で、あるいは、家庭生活や社会の中でのいろいろな体験をとおして、驚き・不安・喜び・期待などを感じたことがきっとあるでしょう。

自分の生活を振り返り、それを作文に書くことは、たいへん意義深いことです。なにげない日常生活の中で、自分自身の心の変化を見つけることが大切です。それを文章に綴(つづ)ることによって、一歩一歩、中学生としての自覚、ひいては自分の生き方を見つける姿勢が身についていくことになるのです。

一 題材を見つけよう

いつもの生活の中から、心に残った出来事を思い出してみましょう。

○書けそうなことを、おおまかに思い出して、○で囲もう

家族　　部活動　　仲間　　学校行事
地域・伝統　　福祉体験　　勤労　　習い事・趣味
悩み・怪我(けが)・病気　　その他（　　）

○題材になりそうな体験や出来事を思い出し、○を付けよう

（　）あるものの存在が、自分にとってどんな意味があるかを考えるきっかけとなった出来事
（　）自分が新たな行動を起こすきっかけとなった体験
（　）嫌だったことが誇らしいことになったなど、感じ方が変化した体験

○題材になりそうな体験や出来事を思い出し、付箋(ふせん)紙を使い図式化してみましょう。

・意味や感じ方が変化する前の自分、新たな行動を起こす前の自分

・変化のきっかけになった人物、出来事

変　容

出来事　　人　物

・意味や感じ方が変化した後の自分、新たな行動を起こした後の自分

○では、図式化した自分の体験や出来事を、どのように表現すればよいか、参考作文を読んで、イメージしてみましょう。

見本

たかが基本、されど基本

豊橋市立中部中学校三年　倉田和呆

工夫された表現

はじめ

①

「ああ、疲れた。」

土曜日の部活動が終わった。そして、ようやく一週間が終わったという解放された気分で玄関を開けた。

「あれ。」

母の靴がある。いつもは私より帰りが遅いのに、今日は珍しく仕事が早く終わったらしい。

「ただいま。」

リビングに入ると母が寝ている。

「どうしたの。仕事は。」

「仕事が早く終わったのはいいんだけど、ちょっと頭が痛くて……。」

母が寝込むことはめったにないので心配だ。そんな私の気持ちを察したのか、

「最近暑かったから、夏バテかね。少し涼んでご飯食べたら治ると思うで大丈夫。お昼ご飯は何か作るで、のんちゃんはシャワー浴びて、着替えておいで。」

と言って、起き上がろうとした。でもやはり具合が悪そうだったので、

「あっ、お母さんは寝てて。お昼ご飯は私が作るから。」

と言って、母に無理やり布団をかけた。

「のんちゃんが作ってくれるの。部活で疲れてるのに悪いね。」

母が申し訳なさそうに言う。でも、毎日私と姉のために働いて、家事や私の送り迎えなど忙しそうに動き回っている母の姿を見て、申し訳ないと思っていた。部活動や勉強を言い訳に見て見ぬふりをしているだけだった。だからこそ、この機会に日頃の感謝を伝えたかった。

②

まずは、お味噌汁を作ることにした。冷蔵庫を開けてお味噌汁の具を探すと、真っ先に大根が目に入った。大根なら切り方も調理の仕方も知っている。それに、よく母が作るお味噌汁にも入っているので迷わず大根に決めた。一種類だけでは寂しいと思い、豆腐を探したけれど見当たらなかった。だから、油あげを入れることにした。大根は拍子切り、油あげは短冊切りにして、鍋に入れた。とりあえず大根が煮えるまで少し携帯を触ろうとしたとき、

「あっ、だし。」

だしを入れていないことに気がついて、慌てて火を止めた。

「お母さん、お味噌汁のだしは。」

と聞くと、

「かつおぶしでとればいいよ。」

と教えてくれた。しかし、かつおぶしでだしをとったことはなかったので、再び母に、

「どのくらい使えばいいの。」

と聞くと、

「一つかみくらいかな。」

と教えてくれた。かつおぶしを握って母に見せると、

「もうちょっと多い方がいいかな。お母さんがやるわ。」

と起き上がろうとする。慌てて母を寝かせ、

「大丈夫。だいたい分かったから。お母さんはゆっくりしてて。」

と言った。母に手伝ってもらっては意味がないのだ。本当はいまいちだしのとり方が分からなかったが、それっぽくだしをとり、具材を入れた。具材が煮えたので味噌を入れて、火を強めた。その間に作り慣れた玉子焼きを作った。そんなことをしていたら、お味噌汁がぐつぐつと沸騰していたので急いで火を止めた。こうして何とかお昼ご飯を作ることができた。

③

「お母さん、できたよ。」

母を呼んで、机にご飯を並べる。

「のんちゃん、ありがとね。いただきます。」

母がにっこりと笑ってそう言った。私はとてもうれしくなった。私も、

「いただきます。」

と言って、できたばかりのお味噌汁をすすった。

なか

会話文を多用することでその時のやりとりをいきいきと表現している

心情を対比的に描いた効果的な表現

味噌汁作りの動機を複数挙げ、「なか」への導入にしている

擬態語を入れることで様子を具体的に描写

見本

「ん。」

お味噌汁を口に含んだ瞬間、ほんの少し違和感を感じた。だしも味噌も母の作るお味噌汁とは一緒なのに、全くの別物のようだった。おいしいと言ってくれている母に、

「何かちょっと違う感じがしない。」

と聞くと笑いながら、

「のんちゃんの味。」

と言った。気になるのでしつこく聞いてみると、

「かつおぶしのだしはお水が沸騰してからとるんだよ。」

と教えてくれた。さらに続けてこう言った。

「お味噌を入れた後は絶対に沸騰させたらだめだよ。お味噌の風味と香りが全部飛んじゃうからね。」

思い当たることばかりだった。それにかつおぶしのだしは沸騰してからとることも、お味噌汁は沸騰させてはいけないことも、小学校の家庭科で習ったことを思い出した。

「お味噌汁の基本だよ。今度作るときはこの基本を守って作ってごらん。そうしたらもっとおいしいお味噌汁ができるから。」

④ そう言われてはっとした。私はいつも基本を疎かにしてしまう。剣道部でもコーチに、

「素振りや基本の打ちを大切にしなさい。基本がしっかりしとらんと試合では勝てんぞ。」

と、基本について言われることがある。素振りや基本の打ちは地稽古や試合練習に比べると単調だ。しかし、その作業を地味にこつこつと、そして毎日続けることが最も大切なことだ。剣道部の夏はとにかく暑い。面に防具、袴とまるでサウナのように熱気がこもる。冬は冬で、足の裏から伝わる冷たさは体中が震えるほどだ。逃げ出したくなる日もたくさんあったが、どんなときも「基本」を忘れてはならない。

⑤ お味噌汁だって同じだ。私の作るお味噌汁と母の作るお味噌汁。見た目はほとんど一緒だが、味は全く違った。それは、「基本」があるかないかの差だと思う。目には見えない「基本」はとても大切な役割を果たしているのだ。母は、「基本」を難なくこなし、さらにお味噌汁には毎日違う具が入っている。このような細かい工夫から母の愛情をものすごく感じた。昨年父を亡くし、母ももちろんつらかったと思う。でも、私や姉を気遣う母の姿はとても頼もしく、何度も何度も助けられた。

⑥ 次の日、母の体調もよくなり、もう一度お味噌汁を作った。

「だしは沸騰してから入れる……。味噌は……。」

基本はなかなか覚えることができない。だからこそ毎日の積み重ねが大切なのだ。

「よし。できた。」

できあがったお味噌汁の見た日は、昨日と同じだった。

「いただきます。」

口に含んだお味噌汁は昨日とは全くの別物だった。ほんの少しのことでこれほど変わるのかと驚いた。母に感想を聞くと、

「やっぱり今日の方が格別においしいね。」

と言ってくれた。

「基本って忙しいと面倒くさいなって思うんだけど、大切なんだよね。」

⑦ 私も母と同じようなことを考えていた。基本とは簡単なことが多い。ちょっと手間をかけたり、少し気をつけたりするだけで大きな差ができることを思い知った。

「どんなことでもたかが基本、されど基本。頭では分かっていても、適当にごまかしちゃうときがあるけど、必ずどこかで手を抜いたことが分かっちゃうんだよ。」

本当にそのとおりだと思った。基本を積み上げる大切さをお味噌汁から、剣道から、そして母から学ぶことができた。東京で暮らす姉をふと思い、帰ってきたらお味噌汁を作ってあげようと思った。それまで何度も練習をして、基本を積み上げていこう。帰省してくる日が、いつもより楽しみだ。

おわり

『みかわの子』第58号

※下のQRコードを読み取ると、以前に掲載された作文を読むことができます。

回想を入れて、構想を工夫している
直喩法を使って、イメージしやすくしている
基本が果たす重要な役割を対照的に表現
程度を表すことでイメージしやすくしている
言いきる形にすることで、忘れてはならないことを強調している
違和感の正体が母の言葉で明確になっていくことを表現
基本を守ることで生み出される効果を表現
反復表現で思いの強さを強調
対句的に描くことで、見た目と味の違いを強調している
心に残る言葉の挿入
成長の実感がわかる表現
これからに対する思いが伝わる表現

二 主題文を書こう

「主題」とは、「読み手に伝えたい、変化した気持ちや考え」のことです。どんな「題材」を取り上げて、どんな「主題」を書くか、はっきりさせましょう。この題材と主題を一続きの文にしたものが「主題文」です。主題文を書くと、書きたいことがはっきりします。

(一) 「たかが基本、されど基本」の主題文の例を読もう

題材	出来事・場面	・味噌汁作りを通して、基本を疎かにしてしまっていた自分と向き合った。
主題	変化した気持ち・考え	・基本は簡単なことが多いが、その積み重ねが大きな差になることに気づいた。

【主題文】
味噌汁作りを通して、何事にも基本を地道に守り続けることが最も大切であり、「たかが基本、されど基本」を毎日続けることが大きな差になることに気づいた。

(二) 19ページで図式化した題材をもとに、主題文を書こう

題材	出来事・場面	
主題	変化した気持ち・考え	

【主題文】

三 構想表を書こう

主題文が書けたら、構想表を作りましょう。どの出来事や場面を取り上げるのか、どのような順序で書くのか、何を詳しく書くのかなどを書き込みましょう。

○ 「たかが基本、されど基本」の構想表を読もう

主題文	書きたい事柄とその順序
	味噌汁作りを通して、何事にも基本を地道に守り続けることが最も大切であり、「たかが基本、されど基本」を毎日続けることが大きな差になることに気づいた。
はじめ	①味噌汁作りのきっかけ ・母の体調不良、日頃の感謝を伝えたい。
なか	②試行錯誤の味噌汁作り ・だしをとる順番を間違えたこと。 ・沸騰させてしまったこと。 ③「基本」を守らなかったことによる違和感 ・味噌汁を口に含んだ瞬間の違和感。 ・「お味噌汁の基本だよ。」 ④部活動における「基本」の回想 ・部活動のコーチに言われた言葉。 ・どんなときも「基本」を忘れてはならない。 ⑤基本に対する気付き ・「基本」はとても大切な役割を果たしている。 ・母の姿に何度も何度も助けられたこと。 ⑥「基本」を守り、再挑戦した味噌汁作り ・基本を守るには毎日の積み重ねが大切。
おわり	⑦たかが基本、されど基本 ・ちょっとの手間で、大きな差ができる。 ・どんなことでも「たかが基本、されど基本」 ・何度も練習して、基本を積み上げていこう。

見本

○構想のヒント

どのような構成にすると、自分の思いをより効果的に表現できるでしょうか。構成の仕方をいくつか見てみましょう。

（注）番号は、書き進める順序

・時系列にそって書く場合

(例) 状況やそのときの心情がわかる書き方

はじめ	①母の事故と混乱する私
なか	②事故によって生活が変わったこと ③事故の怖さと健康であることへの感謝 ④友達の悩みを聞いて感じたこと ⑤母の仕事とその存在の大きさ
おわり	⑥母への思い

・時系列を変えて書く場合

(例) 現在の様子から入り、その状況に興味をかきたてる書き方

はじめ	①弟と将棋をし、負ける僕	現在
なか	②祖父と将棋をした思い出 ③将棋に引き込まれていく弟 ④弟の決意 ⑤祖父の死	⇦ 過去
おわり	⑥弟と将棋をする僕。弟によって受け継がれた祖父の思い。	⇦ 現在

・その他、物語の「設定・展開・山場・結末」と同じ四場面構成の方法もあります。

○構成の仕方によって、読み手の印象がどのように変わるか確かめてみましょう。

(一) 「たかが基本、されど基本」は22ページの構想表の順序で書かれています。しかし、この構成を変えてみると、読み手の印象はどのように変わるでしょうか。

例えば、次の(ア)(イ)の場面を「はじめ」にした場合、それぞれの場面は、どのような順番にするとよいでしょうか。また、その場合、読み手はそれぞれどのような印象を受けるでしょうか。

(ア) 味噌汁が完成し、口に含んだ瞬間に感じた違和感から（③場面から）

(イ) 剣道部でも基本を疎かにしてしまうエピソードから（④場面から）

○場面を並べる順序によって、読み手の受ける印象が変わることがわかりましたか。次のページで構想表を書くとき、エピソードの順序にもこだわってみましょう。

見本

(二) 23ページの「構想のヒント」を参考に、構想を立てよう

※下のQRコードを読み取ると、ワークシートを入手できます。

主題文（自分自身に起こった変化のまとめ）		
※22ページに書いた主題文をここに書く。		
書きたい事柄とその順序	はじめ	なか
書かれているとよい内容	○出来事のはじまりやきっかけ。 ○時・場所。 ○出来事の場面紹介。 ○登場する人物の説明や自分との関係。 ○登場する人物の行動や表情、会話と、それらから感じられたり、考えられたりすること。 ○自分自身に起こった変化のクライマックスの様子。	

見本

○構想表を書く順序

(1)出来事・場面を整理する

・付箋紙を用いて、出来事や場面を項目ごとに書き出す（後で整理するので、重ねて貼ってもかまいません）。

・全ての場面がそろったら、時間の流れにそって並べ替える。

・詳しく書きたい場面を決める。

・書かなくてもよさそうな事柄の付箋紙を外す。

※付箋紙を貼るのに適した大きさになっています。

(2)書く順序を決める

・貼られている付箋紙に、時間の流れにそって番号をふる（時間の流れを確認しながら書き進められます）。

・書いていく順番に付箋紙を貼り替える（主題文の内容がより効果的に伝わるように順番を考えてみよう）。

※時系列で書く場合
はじめ：出来事の発端
なか：その後の様子
おわり：変化した自分の気持ち

※時系列を変えて書く場合
はじめ：今現在の様子や自分
なか：今の自分になるまでの出来事
おわり：今の自分の気持ち

(3)詳しく書くことを決める

・付箋紙の近くに、その場面での会話、人物の行動、表情、周りの情景をできるだけ詳しく思い出して書く。

おわり	
○今後どのように生活や行動をしていくか。 ○今の自分の気持ちや考え。	

四 作文を書こう

○ 題名の工夫をしよう

次に挙げたのは『みかわの子』の作品の題名です。参考にしましょう。

主題を象徴する具体的な物品や人物、行動から

- 「朴(ほお)の葉餅」
- 「僕と妹の『オクラ』」
- 「たった一時間の反抗期」
- 「知らなかった兄の顔」
- 「祖父と時計」
- 「重い傘」

比喩（隠喩）や情景描写から

- 「一秒間の歴史」
- 「風のスイッチ」
- 「前を向くその先に」
- 「笑顔の秘密」
- 「Kがくれた世界」
- 「消え去りたい夏の中で」
- 「トイレ番長」

○教科書作品の題名にも、「象徴」や「比喩」が使われていましたね。

例えば次の作品はどうでしょうか。

（一年）「シンシュン」、「星の花が降るころに」、「少年の日の思い出」

（二年）「アイスプラネット」、「盆土産」、「字のない葉書」

（三年）「握手」、「高瀬舟」、「故郷」

五 よりよい作品にしよう ― 推敲(すいこう) ―

㈠ よりよい作品にするために

よりよい作品にするためには、推敲が必要です。巻頭の「推敲の仕方とポイント」に従って、自分の作品を書き直しましょう。また、題名や名前を書く位置、記号の書き方については、巻頭の「原稿用紙の使い方」を参考にしましょう。

㈡ 描写の見直し

次の描写を比べてみましょう。描写の仕方によって読み手の受ける印象がどのように変わるか考えてみましょう。事実を客観的に、あるいは心情を主観的に、あるいは視点から見えたものを順番に、あなたの作文にふさわしいのは、どのような描写でしょうか。

(ア) 今まさに、マラソン大会が始まろうとしていた。

(イ) 僕は一歩踏みだし、ゆっくりとマラソン大会のスタートラインに立った。さっきまでの耳ざわりだった雑音はもう聞こえなかった。

(ウ) 時計が九時四十五分を示した。スターターがピストルを持つ右手を静かに空に向けて伸ばしていく。空には雲一つなかった。

六 友達と作品を読み合おう

原稿を友達と交換して読み合ってみましょう。お互いのすばらしい点や、さらによくするための改善点を教え合いましょう。

見本

付録　記述問題に挑戦しよう

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい

1　ひとつだけの情報源に頼って考えが偏ってしまうということの代表例が、おそらくは新聞ではないでしょうか。メディアの関係者であれば、複数の新聞に目を通す人もいるでしょうが、一般の会社員の方がそこまでするのは、なかなか難しいかもしれません。

2　近年は「メディアリテラシー」という言葉がよく言われていて、つまりはマスメディアがわたしたちに伝える価値観を鵜呑みにせず、できるだけ主体的に解読する力をつける必要性が問われているわけですが、それらは常に比較で成り立っています。A紙がこう書いているけど、B紙はどうか、あるいはC紙はどうかということです。

3　一方で、メディアの情報が確かであるかどうかは、記事を発信するその立場によるというのは常識で、朝日新聞が出す記事と、読売新聞が出す記事の内容が大きく違うのは、お互いの立場が基本的に違うからです。

4　わたしは、原則として4紙ぐらいの見出しをひととおり見るようにしていますが、たとえば、同じ日の国会審議について書かれた記事について、「ここまで見出しが違ってしまっていいのか」と思うことが、現実にしょっちゅうあるわけです。

5　こうなると、エビデンスがたとえ同じでも、見出しのつけ方がまったく逆になり、結果的に印象操作が行われるという可能性も疑って見なければならなくなります。

6　その意味では、［　　］を鍛えることが、論理的にものを考えることでもあるのです。

7　誰かの話を聞くときでも、どこかの企業の主張を聞くときでも、「立場性」に着眼するのが大切です。

「この人はこの立場だからこう言っているんだな」

「この企業はこういう立場だからこう主張しているんだな」

という基本がわかっていることが、結果的にメディアリテラシーにもつながります。

8　言葉の裏の「立場性」というものを見るだけでも、本質の見え方は大きく変わってきます。そうなってくると、今まで何気なく聞いていた職場の上司が言うことも、「なるほど、この立場だからなんだろうな」とか、「立場が違ったらこちらの方へ変わるのかな」という流れが見えてきます。

9　つまり、論理というのは一見公平で、客観的なように見えますが、常にどの立場に立つかによって駆使されるということ、いわば「両刃の剣」だということです。切れ味の鋭い刀でも、誰が何のために戦うかで、使い方はまったく変わってきます。論理の底にある「立場性」を見極めていく練習こそが、倫理そのものを磨いていくということになるのです。

（齋藤　孝『論理的な話し方の極意』による）

（注）
○1～9は段落符号である
○メディアリテラシー＝新聞などのメディアからの情報を見きわめる能力のこと。
○エビデンス＝証拠、裏付け。
○印象操作＝相手が抱く印象を、自分にとって好都合なものになるよう、情報の出し方や内容を操作すること。

(一)　［　　］にあてはまる最も適当な言葉を、本文中から九字で抜き出して書きなさい。

(二)　この文章の論の進め方の特徴として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選びなさい。

ア　主張を支える多くの事例をあげ、事例ごとに仮説を立てて、検証することにより、文章全体に説得力をもたせている。

イ　問いを立ててそれに対する答えを述べ、さらに問いを立てて答えながら、わかりやすく自身の考えを伝えようとしている。

ウ　対照的な概念を提示し、それぞれの特徴や問題点を明らかにすることにより、読者に自らの見解をわかりやすく示している。

エ　身近な経験の中から話題を設定し、例をもとに自身の考えの妥当性を強調しようとしている。

(三)　筆者は第9段落で、「論理」のことを「両刃の剣」だと述べているが、それはなぜか。「立場」「使い方」という二語を用いて、三十字以下で書きなさい。ただし、「論理は…」という書き出しで書くこと。

論理は

二 解答を確認しよう

(一) メディアリテラシー　(二) エ

(三) 解答例

論	理	は	ど	の	立	場	に	立	つ	か	に	よ	っ	て
使	い	方	が	変	わ	っ	て	く	る	か	ら	。		

（二十八字）

三 考え方を確認しよう

解説

(一) 本文章において、何を鍛えることが「論理的にものを考える」ことにつながるのか、たどる必要がある。第3 4 5段落では、ひとつの物事に対して「立場」が違うことでとらえ方が変わることが述べられている。第2段落ではその立場を「比較」し、理解する力を「主体的に解読する力」としていて「つまり」でつないでいることから、「メディアリテラシー」があてはまる。

(二) 第4段落で筆者が新聞を読んだときの経験をもとに話題を設定している。第7、8段落では「立場性」に関する例をあげ、筆者の主張につなげている。

(三)

解答の手順

手順① 指定語句「立場」「使い方」に印をつけましょう。

手順② 「両刃の剣」と書いてある直前の「立場」に注目し、「論理」の説明として必要な部分を抜き出しましょう。

手順③ 「使い方」という言葉が入っている一文を抜き出しましょう。

手順④ ②と③の文の不要な部分や意味が重なっている部分を削り、「論理は」という書き出しに続くように三十字以下で書きましょう。

※文末は「〜から。」や「〜ため。」で結ぶようにしましょう。

論理は

記述問題を解くために

- 何を答えればよいか、つかみましょう。
- 指定語句に○をつけましょう。
- 指定語句を参考に、解答のポイントとなりそうな部分を抜き出しましょう。
- 必要となる部分を付け足したり、同じような内容の部分を比較し、なくてもわかる部分を削ったりして、字数制限内に収まるようにしましょう。
- 接続詞や主述のねじれ、文末表現などを見直して、答えの文章全体が正しくなるようにしましょう。

見本

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい

筆者は前章で、情報と向き合う際に意識しておきたいことについて、一つは、物事をすべからく「グレー」と考えるべきだと述べている。情報を「シロ」と「クロ」にはっきり識別することは難しく、色分けできるものではないからだ。以下はもう一つの大事なことについての文章である。

1　わからないと誰しも不安になります。ニュースを観ていると、とくにそうです。事件を起こした犯人が捕まっていなければもちろんですが、それだけではありません。

2　なぜその事件、災害が起きたのか。どのくらいの被害が生じているのか。どうすれば同じ事件、災害が起きるのを防げるのか。それらがわからなければ、自分たちがどれくらいのリスクにさらされているのかを認識できず、安全、安心の感覚をもてません。

3　問題は、そうした［　　］が、無理にでも答えを出して「わかった」状態になろうとするよう、人間の心理をうながすことです。わかるはずがないことをわかろうとする、あるいはわかりにくいことをわかったと思い込む態度に結びついていきます。

4　犯罪であれば、理解できないもの、嫌悪したくなるものは、「私たちとは性質の違う人間が行ったこと」として心のなかで処理しようとします。しかし、実際には、犯罪者とそれ以外の人間を隔てるものはそれほど大きくありません。事実を客観的に見極めようという気持ちより、事件から自分を隔絶することで安心しようとする心理が勝ってしまい、犯罪者を強引に「異質」なものと位置づけようとします。

5　事件の原因がわからなければ、根拠がろくになくても強引に推論し、なんとなく解明できたというムードを疑似的につくり出す。こうすれば防げるという安心感を得たいがために、効果やコストやマイナスの影響を度外視した非現実的な再発防止案が提案される。わからないことへの不安は、先に述べた「シロ」か「クロ」に単純化する思考にも結びつきやすい。「わからない」に耐えることができず、不安な心理を克服できないと、そのように思考は乱暴になり、ゆがんだ情報に無防備なままさらされて判断を誤ることにもなりかねません。

6　ニュースを読んでわからなくても、無理に結論を出さず、その場ではいったんそのまま「わからない」と受け止める。時間をおいて、別な情報にあたり、わからなさを少しずつ解明していく。そうした姿勢が大切だと思います。

（竹田　圭吾『コメントする力　情報を編集×発信する力』による）

（注）
○1～6は段落符号である
○コスト＝何かを製造するためにかかった費用。
○度外視＝問題とされるところのものを、特別な主張に立って全く考慮の外に置くこと。

(一)　［　　］にあてはまる最も適当な言葉を、本文中から二字で抜き出して書きなさい。

(二)　この文章の論の展開について説明したものとして最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選びなさい。

ア　第2段落と第3段落で問題点について述べ、それを受けて第4段落でその解決策に説得力をもたせている。

イ　第1段落で提示した話題について、第2段落から第5段落で例をあげて説明し、第6段落で主張をまとめている。

ウ　第2段落から第5段落では、わからないことがあったときの筆者の体験について詳しく述べている。

エ　第2段落から第4段落で述べた内容について、第5段落で問題提起している。

(三)　筆者は第5段落で、わからないことへの不安が引き起こす問題点について述べている。それを要約して、五十字以上六十字以下で書きなさい。ただし、「推論」「思考」という二語を用いて、「わからないという不安から、……」という書き出しで書くこと。

わからないという不安から、

二 解答を確認しよう

(一) 不安

(二) イ

(三) 解答例

わからないという不安から、根拠がなくても強引に推論するなど、思考が乱暴になり、判断を誤ることにもなりかねない点。

（五十四字）

三 考え方を確認しよう

解説

(一) 第1段落では、「わからない」ことは「不安」を引き起こすという話題の提示を行い、第2段落では、その不安の具体例を述べている。また、第2段落の最後に「安全、安心の感覚をもてない」としており、第3段落で「そう」という指示語が指す言葉は何かを考えることが求められている。これらの条件から導き出されるのは「安全、安心の感覚をもてない」を言い換えた「不安」があてはまる。

(二) 第1段落では話題を提示し、第2、第3段落では事件や災害が起きたことを例にあげて、不安な気持ちからわかったと思い込む危険について述べている。それを受けて、第4段落と第5段落では、その不安な気持ちを詳しく分析し、問題点をわかりやすくしている。

(三) **解答の手順**

手順① 指定語句「推論」「思考」に印をつけましょう。

手順② 問題点は何かが書かれている一文を抜き出しましょう。

手順③ 思考が乱暴になるとはどういうことか、「推論」を使って言い換えてみましょう。

手順④ ②と③の不要な部分を削り、「わからないという不安から、」という書き出しに続くように五十字以上六十字以下で書きましょう。

わからないという不安から、

※文末は「〜点。」や「〜こと。」で結ぶようにしましょう。

見本

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい

1　物知りはだいたいにおいてものを考えない傾向がつよい。古くからこれを「物知りの馬鹿」と言った。他にも、「なんでも知っている馬鹿」とか「学問のある馬鹿」などもこれに当たる。［A］、知識はあるけど、自分でものを考える力、新しいことを考え出す力がない人のことである。これは人間としてはあまり高級ではない。そういうことは昔からすでにわかっていた。しかし、一方で、常に満点の答案を書けるような、正確な記憶をもっているものは人間以外に存在しなかった。そこで記憶力の優れた人間が、尊重されてきたのである。

2　［B］、今からおよそ六〇年前に、二〇世紀中ごろ、かのコンピューターというものが登場した。これは人類にとって大事件だった。いくら優秀な人間でも知識を詰め込むには限界がある。それに対して、コンピューターの記憶は正確無比だ。記憶、知識に関しては人間はコンピューターに勝てるわけがない。実際、さまざまな場面において人間はコンピューターに負け、仕事を奪われてきた。

3　近年は大学まで出た人が就職難でウロウロしているけれど、コンピューターに仕事を奪われた結果だと考えられる。大学を出ても知識や事務処理についてコンピューターにかなう能力を持っている人はすくない。合理的に考えれば、知識しかない人間などもはやいらないということになる。なぜなら、コンピューターのほうがずっと能率がいいからだ。優秀なコンピューターを一台備えれば、何十人ぶんの、いわゆる事務的な仕事をこなしてしまう。下手な人間を雇うよりよっぽどいいわけだ。

4　これまでの人間は、のんびり知識だけ溜め込んでいれば、試験に合格することができた。試験に合格して学校を出れば、社会の中でエリートとして生きてゆかれた。しかしそんなのんきな時代は、コンピューターの登場で終わってしまったはずである。

5　人間は非常に保守的な生き物だ。いったん始めたことはなかなか変えない。コンピューターが現れて六〇年。最近になってみんなやっと、人間というものの本当の力がいったい何なのか、少しずつだけど気づき始めた。すくなくとも、ものを記憶して、それを再生するという機能だけでは、充分ではない。記憶と再生に関しては、人間はコンピューターにとてもかなわない。長い目で見れば、そのうちに、多くの場面で人間の代わりにコンピューターが仕事をするという時代がやってくる。その時すべての人間が失職するというのであれば、実に哀れなことだ。元々、コンピューターは人間がこしらえたものなのに、そのコンピューターによって人間が仕事を失い、生きがいまで失う―そんなことにならないためにも、知識万能主義から脱却しなくてはならない。

（外山　滋比古『知ること、考えること』による）

（注）
- ○1～5は段落符号である
- ○正確無比＝このうえなく正確であるさま。
- ○事務処理＝会社や役所などで書類を作成したり、整理したりすること。
- ○保守＝それまで続いてきた・続けられてきた状態を維持し続けること。

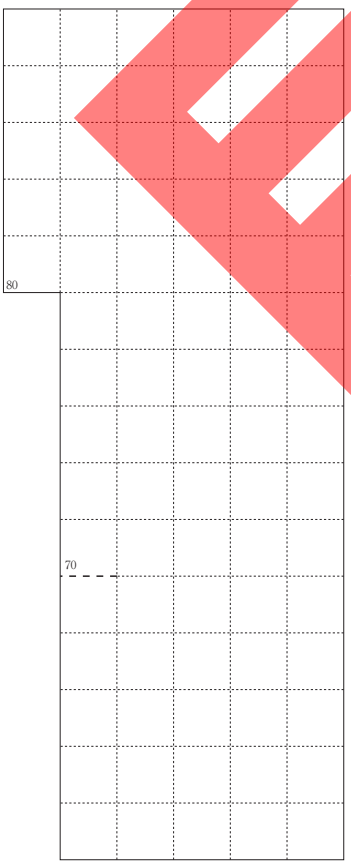
(一)　［A］、［B］にあてはまる最も適当な言葉を、次の**ア**から**カ**までの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

ア　たとえば　　**イ**　なぜなら　　**ウ**　それとも　　**エ**　すると
オ　つまり　　**カ**　ところが

(二)　この文章の内容として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選びなさい。

ア　コンピューターの登場により、『知識があっても考える力がないのはだめな人間だ』という認識が広まった。
イ　今も昔も正確な記憶をもっている人は存在しなかった。
ウ　人間はコンピューターに負けないような記憶と再生の機能を身につけていかないと仕事がなくなってしまう。
エ　考え方によっては、優秀なコンピューターがあれば、知識しかない人間などもはやいらないということになる。

(三)　筆者は第5段落で、「知識万能主義から脱却しなくてはならない」と述べている。その理由を、「記憶と再生」「本当の力」「生きがい」という三語を用いて七十字以上八十字以下で書きなさい。



二 解答を確認しよう

(一) A **オ**　B **カ**

(二) **エ**

(三) 解答例

記憶と再生に関しては、人間はコンピューターにかなわないので、人間の本当の力である自分でものを考える力がないと、仕事を失い、生きがいまで失うことになるから。

三 考え方を確認しよう

解説

(一) A **オ**

□の前の、「物知りの馬鹿」「なんでも知っている馬鹿」「学問のある馬鹿」の説明を述べているのが、□以降の文章であり、本質が「知識はあるけど、自分でものを考える力、新しいことを考え出す力」がない人のことだと述べているので、説明の接続詞〔つまり〕を選ぶ。

B **カ**

前の段落の終わりでは人間の優秀さについて述べているが、次の段落ではコンピューターの方が優れていると述べているので、逆接の接続詞〔ところが〕を選ぶ。

(二)

ア 第1段落にそういうこと（新しいことを考え出す力がない人は高級ではない）は、昔からすでにわかっていたと書いてあるので、適当でない。

イ 第1段落に正確な記憶をもっているものは人間以外に存在しなかったと書いてあるので、適当でない。

ウ 第2段落に記憶、知識に関しては人間はコンピューターに勝てるわけがないと書いてあるので、適当でない。

(三)

解答の手順

手順① 指定語句「記憶と再生」「本当の力」「生きがい」に印をつけましょう。

手順② 直前の文に「そんなことにならないためにも」と書いてあるので「そんなこと」の内容を書きましょう。

手順③ 指定語句である「記憶と再生」という言葉が入っている一文を抜き出しましょう。

手順④ 「本当の力」とは何のことか、文章全体から抜き出してみましょう。

手順⑤ ②〜④の不要な部分を削り、七十字以上八十字以下で書きましょう。

※文末は「〜から。」や「〜ため。」で結ぶようにしましょう。

見本

令和７年度版　**表現の友**　３年

編集　「表現の友」編集委員会
三河教育研究会

刊行　公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話〔0564〕51－4819

印刷　株式会社　岡田印刷

表　紙　豊川　中嶋　桂 先生

さし絵　安城　齋藤みゆき先生
豊川　永井　典代先生
豊橋　田中　千晶先生

※無断で複写・複製することを禁じます。

見本

組
番
氏名